

鹿児島大学病院

研修医 小迫 拓矢 2018年2月

2月に地域医療研修としてお世話になりました、鹿児島大学病院の小迫拓矢と申します。約1カ月の間、出水総合医療センターを中心に、野田診療所、高尾野診療所、出水保健センター、上場診療所等で研修させていただきました。もともと鹿児島市内出身で、出水に来たのは20年以上前に鶴を見に来て以来となりました。

野田診療所では、胃カメラやエコー検査、外来見学などにつかせていただきましたが、特に往診診療に力を入れました。往診患者さんそれぞれの生活背景や周囲の方々からのサポートをどのように得ているか見ることができました。また、往診患者さん一人ひとりが診察を終えるごとに、とても丁寧にお礼を述べてくださった点も印象的でした。

高尾野診療所では、主に外来診療をさせていただきました。慢性疾患をもった患者さんたちの定期受診ではありましたが、限られた時間の中で患者さんの1カ月間の様子や現在困っていることや悩みなどをピックアップして聴取することはなかなか難しい場面もありました。野田でも高尾野でも、往診や外来診療で初めてお会いした方々でしたが、皆さん診察が終わった後には「これから頑張るね」など励ましの言葉を親切にかけてくれることもあり、とても温かみのある地域だと分かりました。

出水保健センターでは、母子健康相談と3歳児検診を見学させていただきました。当然ですが、子供たちの中でも様々な個性があり、それに悩む親に寄り添ってあげる保健師さんたちの姿をみることができました。

上場診療所では、月に2回という診療のなか、さらに限られた医療資源のなかで診察しなければならず、患者さんたちの体調変化に特に気を配ったりと医師自身のスキルの必要性を感じました。出水総合医療センターでは、脳神経外科を中心に研修し、その合間に多職種連携を学ぶ機会も設けていただきました。脳梗塞や脳出血などの脳卒中で救急搬送されてくる多くの患者さんに出会い、急性期の治療からその後の慢性期の治療を通して回復していく姿を見ることができました。また、出水の地域では病院間で一次救急(外来レベル)と二次救急(外来～入院レベル)の住みわけがある程度行われていて、患者さんからの電話相談でどこの病院を受診すればいいかアドバイスしている点も印象的でした。

最後になりましたが、大変お忙しい中、時間を割いて丁寧に指導してくださった多くの方々に深くお礼申し上げます。今後、医師として多くの時間を歩んでいきますが、この出水での1か月間の経験をこれからは活かしていけるよう頑張っていきたいと思えます。